

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



1999. 10

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 186

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 人材バンクに登録しよう

山部直喜（三郷市）

この頃、学校から配布されるプリントや地域の広報誌に、人材バンク（学校支援ボランティアと言う時もあります）の登録の募集が目につきます。私も「野鳥のことで協力できる」としてこれらに応募し、学校や地域のお手伝いをしてきました。思ったほど、荷の重いものでもなく、むしろ楽しいものでした。そして自分にもできる環境保護活動と考えるようになりました。

そこで今月号は、私の経験から分かったことを提供し、皆さんもこの種の人材バンクにどんどん登録されることをお勧めしたいと思います。

## その背景は？

このような募集が増えた背景に、文部省が告示する『学習指導要領』の改正があります。

今回の改正で、平成14年度から全く新しい授業「総合的な学習の時間」が始まります。これは、小学校3～6年生は週3時間程度、中学校1～3年生は週2、3時間程度ずつ行われます。高校でも始まります。

この「総合～」には教科書はありません。その地域や学校の特色に応じた学習活動を行います。これが「総合～」の授業です。学校だけではできません。家庭や地域の人々との協力が不可欠なのです。

しかも「総合～」は来年度から少しずつ始まります。学校も急いでいます。こちら辺りに、人材バンクの募集が増えた原因がありそうです。

## どんな質問が出てくるか

さて、応募してなんらかの依頼を受けたとします。最も多い依頼は、小・中学校からの「この地域の野鳥のことを話して下さい」でしょう。



巣立ち雛を誘拐しないでね

そして必ず出る質問は、①「この〇〇市（町）にはどんな野鳥がいますか」、②「どこに行けば見ることができますか」、③「何羽ぐらいいますか」の3つです。

私の場合、①では越谷市と三郷市の自作のリストがありますのでそれを使います。ただし、子供に見せる時は記録が3回以下の希少種は省略します。

そして説明は普通種に絞ります。これなら、例えリストがなくとも自分が住んでいる所は、思い出し出しリストは作れます。大事なことは、子供にとって身近な鳥であること、そしてあなた自分自身が実際に確認した鳥であることです。

②も普通種で冬季に絞り、カモ類を観察できる場所、カラス、スズメ、ハクセキレイのねぐらの場所を話します。猛禽類は保護のため紹介しないことにしています。

③は、当支部でも毎年行っている「ガン・カモ調査」の結果を紹介します。また、「ハクセキレイは、〇〇のねぐらに〇羽程が集まっています」程度の説明をしています。

また「越谷市は鳥が多いところですか」という質問もありました。それには、浦和市のリストと比べて、子供自身に考えてもらいました。

## こんな事を話そう

私が気をつけていることは2つです。1つは情報の提供に徹するという事です。つまり指導は学校に任せて、私たちは協力の依頼を受けた地域の、野鳥の情報提供者であればよいと考えています。

表 野鳥の観察を中心にした学校での活動例

春	3月	・巣箱、餌台、水場の観察	秋	9月	・水場の観察
		・木の芽の観察			・どんぐり遊びと鉢植え
		・校庭の雑草の花の地図作成			・水場の観察
	4月	・巣箱、水場の観察		10月	・バッタ釣り
		・ツバメの確認			・どんぐりの地図作成
		・校庭の雑草の花の地図作成			11月
		・どんぐりの苗木植え		・巣箱、餌台取り付け	
	5月	・巣箱、水場の観察		・ねぐら探し	
		・ツバメの観察と巣の地図作成		12月	・巣箱、餌台、水場の観察
・プールの水生昆虫採集		・ねぐら探し			
夏	6月	・水場の観察	・古巣探しと巣材調べ		
		・ツバメの観察と巣の地図作成	・カモの観察		
		・オオヨシキリ声を聞く	・屋上から見える山の同定		
		・サギのコロニーを観察	1月	・巣箱、餌台、水場の観察	
7月	・水場の観察	・古巣探しと巣材調べ			
	・サギのコロニーを観察	・カモの観察			
	・セミの鳴声を聞き分ける	・屋上から見える山の同定			
8月	・雑木林での昆虫観察	2月	・巣箱、餌台、水場の観察		
	・雑木林での昆虫観察		・カモの観察		
	・セミの抜殻を収集・分類		・木の芽の観察		

例えば、「ガン・カモ調査」からその増減の原因を質問された時などはあまり深入りせず、「あなたたちはどのように考えますか。もし、原因が分かったら私にも教えてください」程度に止めておき、その後は学校の指導に任せられた方が良く考えています。

また、私たちが知っている以上の情報を求められた場合は、それを探す手段、例えば図書館に行く、環境保全課をたずねるなどの手段を提供すればよいと思います。

ただし、巣立ち雛を拾ってきた時の対処の仕方については、『しらこぼと』1993.5月号を参照に、指導の場合もあるかと思えます。

気をつけている2つめは、子供にとっての身近な鳥を子供の生活との関わりの中で話すという事です。そして、日常生活の中で身近な鳥と教科書等の中で身近な鳥に分けて話しています。

前者では、まずシラコバトから始め、キジバト、ドバトをからめます。続いてカラス、スズメ、ムクドリ、ツバメ、カモ類、サギ類です。

後者では、小学校3年生の国語の教科書か

ら「つりばしわたれ」の中のカッコウ、同「どんぎつね」のモズの声、同5年「大造じいさんとガン」のハヤブサとマガン、同6年「やまなし」のカワセミ。そして埼玉地方の小学生の文集『よしきり』のいわれをオオヨシキリと結び付けて話しています。

表は、活動例として提供した資料の一部です。参考にしていただけたいと思います。

付け足しですが、「あ、それ知っている」、「それテレビで見た」と話の腰を折る子が必ずいます。その子については、「君はよく知っているね。よし、私が間違ったことを話したら教えてね」とお願いすれば、その子はもうあなたの味方です。

### 準備をしておこう

と、言っても大きく構える必要はありません。今、住んでいる付近の鳥の記録を残しておくだけです。例えば、通勤途上の観察を、週に2、3回でいいのです、1年間まとまると素晴らしいデータになります。そしてそのデータが、あなただけに何かを語りかけてきます。

## 第6回野鳥密猟問題シンポジウム in 千葉

福井恒人（浦和市）

昨年11月28日（土）29日（日）の2日間、千葉県流山市の県立流山青年の家で開催された密猟問題全国シンポジウムについてご報告します。

このシンポジウムの主催は全国密猟対策連絡会、後援は（財）日本野鳥の会・環境事業団地球環境基金・世界自然保護基金日本委員会（WWFJ）・日本鳥類保護連盟・千葉県で、主管が、日本野鳥の会千葉県支部です。

今までの開催は、第1回徳島から、愛知、大分、栃木、広島と続き、そして今回の千葉という事で、私は埼玉県支部代表として、そのすべてに参加してきました。

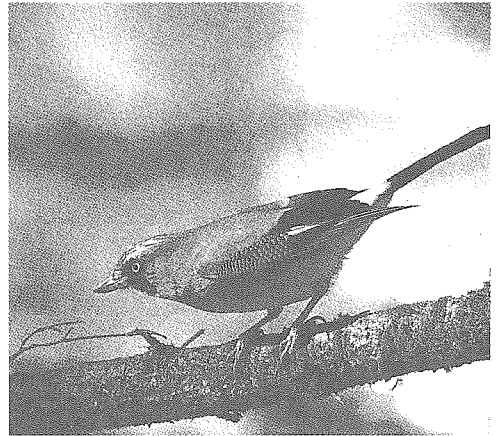
地元の流山市長や千葉県・千葉県警察の担当者、岐阜県・群馬県・福岡県・佐賀県等の行政関係者たち、野鳥の会の支部では、青森・茨城・群馬・東京・神奈川・岐阜・愛知・京都・大阪・広島・徳島、各支部の人たち、そしてもちろん多くの千葉県支部の皆さんが集まりました。

東京大学の阪口功氏（国際社会科学）による基調講演『サイテスとNGOの役割』から始まって、千葉県の密猟対策・海外調査報告・鳥獣保護法改正の動き・全国百貨店野鳥販売状況調査・カスミ網による密猟の現状（岐阜）・密猟裁判（鹿児島）と事例報告が続き、1日目が終わりました。

指示された同室者達と部屋に入り、案内を



クロサギ（外園たけの）



カケス（外園たけの）

読むと、夜10時半には消灯で暖房も止まる、明朝の早朝探鳥会に参加しない者は、朝の集いに参加しなければならない、しかもその後指定場所を30分間清掃、それからようやく朝食と、結構厳しい。むむむです。

セルフサービスの食堂で夕食。いつも通り懇親会、青森県支部の名物男、針生氏によるオークションと進みました。

2日目は早朝探鳥会に参加して、宿舎近くに戻ってくると、なんと驚くほどの数のメジロが飛びかっています。どうやら、その日の野鳥識別講座用に用意されたかごの中のメジロの鳴き声に反応して集まったようです。

その識別講座は、山階鳥類研究所茂田良光氏による講演と、日本標識協会会員によるメジロの識別実習の二部構成です。

外見での識別と2ヵ所の実測による識別を実演してもらい、自分でも体験してみると、日本産メジロと外国産メジロをはっきりと識別できるのに驚きました。

実測値のデータが、グラフ上に設定されたそれぞれのエリアにすっかり納まり、部外者にも説明しやすく、今後の密猟や違法飼育の取り締まりなどに非常に有効であると、実感しました。

全体会議、アピール文の採択、読み上げと続いて、実り多いシンポジウムは閉会となったのです。

## 調査へのご協力ありがとうございました 研究部

### ●調査はがきから

○南浦和の競馬場の中にある貯水池で、5月ごろからオオヨシキリ2羽がギョギョシ、ギョギョシ、ケロケロケロと、なわばりをはっていました。6月末にアシがバッサリと切られ、1羽だけとなりました。ここで7月末に花火大会があるので心配です。バンは、残りのアシの中でケッケケッと鳴いています。

(浦和市 伊藤鈴子)

○6月22日、午前9時50分ごろにコマドリが鳴いていました。どこにいるのか、私が近づいて行ったら鳴かなくなり、どこかに行ってしまうしました。スズメとヒヨドリ、ツバメは毎日見えています。

(川口市 新井勇吉)

○6月20日、久喜菖蒲工業団地の中の池で、アマツバメ6羽。アマツバメは初めて見ました。聞いたことのない声、まるで鎌そのものが飛んでいるかのような姿。ビックリしました。このあたりでは、めずらしい鳥なのでしょう。

(久喜市 井上暁子)

○越谷の桜井地区のアオバズク、今年もいつもの巣穴を見張っていました。しかし、繁殖はいまのところ確認していません。

三郷では、新三郷駅の跨線橋で、2つがいのチョウゲンボウが繁殖。巣穴の真下は、車がビュンビュン通ってます。

(三郷市 山部直喜)

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

### 海老名の休耕田は今…

ジシギ類の渡来で有名な神奈川県海老名市の休耕田。何度も通ったファンも多いことでしょう。この休耕田で行なわれている新しい試み—草刈りをしたり、水をはったりしてシギ・チドリ類が降りやすい環境を整備する—については「しらこぼと」98年9月号で紹介されています。今年さらには前進し、いくつかの休耕田を“野鳥観察田”として国の補助金の対象とする制度が試験的に行なわれています。これは全国初の試み。行政と日本野鳥の会神奈川県支部の努力に、農家の方々の理

### ●研究部から

「鳥の目から環境を調べよう」の夏鳥調査に対して、9月11日現在、115枚ものご回答を頂いております。まことにありがとうございます。現在、調査はがきの山を見ながら、データ整理に追われています。はがきに添えられていたお便りのいくつかを前項で紹介させていただきました。

ただ、中にはせっかくお送りいただいたのに、データとして扱えない“こまったちゃん”はがきが、残念ながら何枚もありました。たとえば……

○冬鳥と夏鳥を、いっしょに書いてしまっているもの

○明らかに調査範囲（自宅を中心に半径50m）外の鳥が書かれているもの

○カラス、セキレイ、ハト、シラサギなど鳥の種名が書かれていないもの

○調査場所を示す住所と郵便番号を書き忘れているもの

○去年見た鳥など、調査期間外に見た鳥を書いてしまっているもの

せっかくの情報が無駄にならないよう、くれぐれも御注意下さい。冬鳥調査のほうも御協力下さいますよう、よろしくお願い致します。

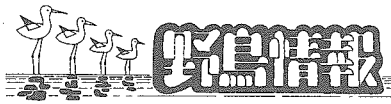
(小荷田行男)

解と協力があったはじめて実った成果です。

“野鳥観察田”となった休耕田では今、JAの方が作ってくれた可愛いイラスト入りの小さな看板が、秋風にゆれています。

海老名の休耕田を訪れようとする皆さんに、農家の方から、改めて3つのお願い。①ゴミは残さない。②農作業の邪魔になる駐車はしない。③畔道には入らない。それからもう一つ、日本の野鳥を愛する全ての人へお願い。国産の農作物をもっと食べて、日本の農業、日本の農地を守りましょう！

(神奈川県 小林みどり)

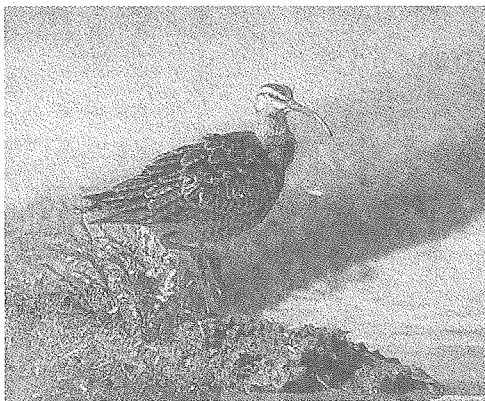


**岩槻市岩槻文化公園** ◇7月7日、コムクドリ3羽。もう南の国へ帰る途中なのだろうか(中村榮男)。◇8月24日午後5時30分頃、元荒川沿い一番南の方で2羽のサンバが上空を舞っていた。1羽は河畔の木にとまっていた(鈴木紀雄)。

**浦和市白幡沼** ◇7月12日午前10時頃、雨あがりの池の上を乱舞するツバメ、イワツバメの群れ(約30羽)を見てたら、カワセミが1羽池の中ほどの杭にとまった。まもなく、もう1羽が隣の杭にとまった。それぞれ2回と4回ダイビングしてから南の岸のほうへ低く飛び去った。7月15日午後6時頃、カワセミ1羽同じ杭にとまった。ダイビング1回。南の岸辺の大きな木の方へ飛び去った。7月16日午前10時~12時、ダイビング3回。1羽が南の岸辺から10~20m池の方へ飛び、1回ダイビングしてから反転して南の岸辺へ戻った(百瀬修)。

**滑川町森林公園** ◇7月17日、クロジ♀1羽。探鳥会の下見でいった時に、ホオジロ♀? 違うぞ! 図鑑と見比べてクロジ♀と確認しました。オオタカ1羽、イカルの鳴き声、ホトトギスが飛び、カイツブリの浮き巣近くで親鳥が見守っていました。ヤマユリの間からウグイスも見られ、オオムラサキの♂♀が10頭もゆっくりと確認できました(佐久間博文、島田恵司、藤掛保司)。

**岩槻市元荒川** ◇7月18日、岩槻橋付近でサ



チュウシャクシギ(蟹瀬武男)

ギのコロニー、2回目の営巣。ゴイサギが今回初めて高い木の枝に所狭しとおよそ80ヶ所も抱卵中。かわいいヒナが餌を親にねだっているのも見られた。他にコサギ、ダイサギも抱卵中だが、木の下の方でよく見えなかった。夕方にはたくさんのチュウサギ、アマサギ、コサギ、ダイサギが帰ってきてねぐらにしているようで、とてもにぎやかだ(中村榮男)。

**滑川町中尾** ◇7月18日、アマサギ8羽、チュウサギ2羽、コサギ3羽(後藤康夫)。

**川本町荒川明戸堰上流** ◇7月24日、ダイサギ、コサギ、イカルチドリ、トビ、カワセミ(後藤康夫)。

**嵐山町都畿川** ◇7月25日、学校橋~槻川橋でゴイサギ1羽、ダイサギ2羽、コサギ2羽、コチドリ1羽、イカルチドリ4羽、カワセミ、モズ1羽、オオヨシキリ1羽、ウグイス(後藤康夫)。

**大宮市三橋** ◇7月31日、三橋運動公園でコムクドリ6羽、当地では例年より今年はいぶ早く観察された。鴨川でカイツブリ若鳥1羽、まだ顔に縞模様が。上流約1kmの所で2羽巣立ったものです。一人で遊びに来たのでしょうか、それとももう親元を離れ独立したのでしょうか。イソシギ1羽、干潟で休むカルガモ15羽の間を走り回っていた。オモダカの白い花が咲く水の入った休耕田で、コチドリ1羽(浅見健一)。

**大宮市日進町1丁目** ◇7月31日、コジュケイ若鳥2羽、足元より突然走り出し林に入り込んだ。ヒヨドリ、桜の並木で素早く上手にアブラゼミを捕っていた。オナガ若鳥1羽、頭上の枝で突然ゴマ塩頭の姿に大きな声で鳴きだされ、びっくりした。尾羽の長さは、もう一人前(浅見健一)。

**川越市南古谷** ◇8月1日、ムナグロ10羽、タシギ3羽、コチドリ30羽。8月21日、ムナグロ300羽、セイタカシギ1羽、アオアシシギ2羽、タカブシギ1羽、タシギ2羽、オオジシギ3羽、タマシギ♂♀各1羽(島田恵司・沙織里)。◇8月27日午後3時45分頃、タマシギ♀1羽、採餌したり、羽づくろいをしていた。近くの別の休耕田で30

## はみ出し行事案内

### 長野県・白馬山麓探鳥会 (要予約)

期日：11月6日(土)～7日(日)

集合：6日午前9時15分、JR長野善光寺口(西口)駅前広場。

交通：長野新幹線「あさま503号」(東京7:00→大宮7:26→熊谷7:40→高崎7:54→長野8:50)。または「あさま1号」(東京7:32→大宮7:56→長野8:57)。

費用：10,000円の予定(1泊3食付き宿泊費、現地バス代、保険料他)。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：20名(先着順、支部会員優先)

申込み：往復葉書に住所、氏名、年齢、性別、

電話番号を明記して、小池一男

まで。

担当：小池、藤掛

見どころ：ベニマシコ、マヒワ、アトリ、ミヤマホオジロなどの冬鳥(マミチヤジナイもまだ残っているかも)の観察はもちろんですが、草木の実や紅葉の識別も是非。さらに白馬連山のモルゲンロートに温泉などなど、今回も晩秋の白馬をまるごとウォッチング。

注意：◆1日目の昼食は各自持参。山道を歩きます、ハイキングができる足揃えと、防寒具、雨具は必携です。◆宿泊は男女別の相部屋です。個室はご用意できません。

羽程のカルガモ群れ中にシマアジ1羽、雨覆いの色は確認できなかったが、全体が淡色なので早か? 顔の2本の汚白線やくちばしのつけねの白斑、翼鏡前後の白帯等がよく観察できた。水面に浮いて採餌したり畔に上がって休んだり。カルガモが近づきすぎると嫌がって逃げていた(鈴木紀雄)。

◇8月28日、コアオアシシギ2羽、セイタカシギ幼鳥1羽、タシギ3羽、ムナグロ50羽、ヨシゴイ1羽、コチドリ30羽、カルガモ80羽の群れ中にシマアジ1羽(榎本秀和、島田恵司・沙織里、藤掛保司・宮子)。

坂戸市城山 ◇8月9日、城山荘裏の林でニュウナイスズメ♂1羽、当地初認(増尾隆・節子)。

嵐山町菅谷館～都畿川 ◇8月28日、エナガ、メジロ、シジュウカラ、コゲラの混群。ニセアカシアの木にエナガ、メジロ各20数羽、シジュウカラ10数羽、コゲラ5羽位。さら

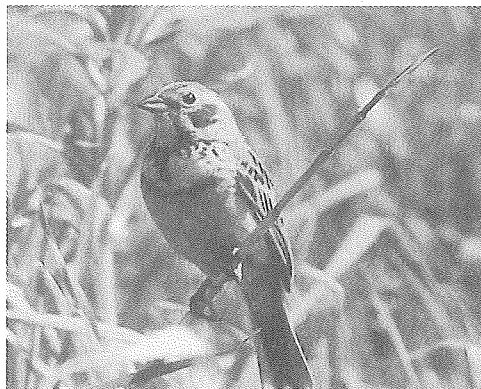
### 表紙の写真

#### オオアジサシ(チドリ目カモメ科オオアジサシ属)

インド洋から太平洋の熱帯に広く分布するが、日本では南西諸島や小笠原諸島で少数繁殖し、本州には稀に飛来するだけ。この珍鳥が、昨年9月23日、台風一過の秋分の日、船橋海滨公園に現れた。

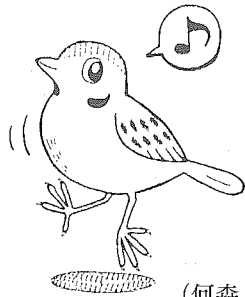
私が谷津干潟で情報を聞いて、お弁当を食べ、電車、バスを乗り継いでたどり着くまで、ちゃんと待っていてくれた。いい子だ。

毎年何かと面白いこの季節。今年はどうだろう。(電車バス歩きの鳥見人)



ホオアカ(菱沼一充)

# 行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

## 浦和・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：10月3日（日）

集合：午前9時、浦和市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場より、大崎園芸植物園行き8：36発に乗車、念仏橋下車。

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤、工藤、笠原、吉岡（洋）、若林、倉林、前澤

見どころ：秋の渡りの季節。ふだんなら見かけない鳥たちがここ差間に立ち寄っていきます。スズメだなどと思わないで1羽1羽じっくり観察しましょう。調整池では冬鳥のカモたちが見られることでしょうか。さわやかな秋の差間にお出かけ下さい。

## 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月3日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前より北里メディカルセンター病院行きバス8：40発にて、自然観察公園前下車。

担当：岡安、榎本、内藤、大坂、島田、高（文）立岩、川那部、永野（安）、永野（京）、高（剋）、山田、今井

見どころ：十月の別名に木染月というのがあります。紅葉にはまだ早いけれど、初

冠雪の富士山をバックに渡って行くサシバが見られたらと思います。ついでに欲張って羽を休めるエゾビタキも。冬鳥のコガモも到着していることでしょう。交通の便の良くなった石戸宿にぜひお越しください。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月10日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居9：03発に乗車。

担当：和田、森本、中島（章）、石井（博）、倉崎、松本、中里、高橋、後藤

見どころ：暑くなく寒くなく、木々の葉も色づく大好きな秋です。渡りも盛りを迎え、そろそろカモ類も戻ってくるでしょう。猛禽類、ヒタキ類も期待できますが、ススキが揺れる野道も楽しんでください。

## 浦和市・秋ヶ瀬大久保農耕地探鳥会

期日：10月10日（日）

集合：午前8時、JR浦和駅西口バスロータリー、集合後バスで現地（やつしまニュータウン）へ。

担当：福井、楠見、小林、海老原、倉林

見どころ：秋冷爽快、まさに1年中でいちばんの時期だ。遠くの秩父の山々も近づいて見える。さあ今日は秋ヶ瀬に集合しよう。ヒタキの仲間もきつと来てい



るはずだ。

### 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：10月17日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、笠原、倉林、若林、兼元、森、清水、前澤

見どころ：暑い夏が去って、ここ見沼たんぼにも鳥たちの秋がやってきた。山から、北の国から、越冬する鳥たちがきて、この地の風景に溶け込んでいく。私たちも鳥と一緒に見沼の風と景色に溶け込みたい。

### 長野県・戸隠飯綱高原探鳥会（要予約）

期日：10月23日（土）～24日（日）

定員に達しましたので締め切りました。

### 行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月24日（日）

集合：午前9時30分、県立さきたま資料館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口より、東武バス行田車庫（佐間経由）行き8：50発に乗車、「産業道路」下車、徒歩約15分。

担当：内藤、岡安、榎本、和田、立岩、石井（博）、松本、島田

見どころ：良く晴れた日に丸墓山古墳の頂に立つと、周辺の花々が遠望できる。特に秋は近づいて見え、すばらしい。そんな古墳の堀にカモたちは元気に渡ってきているだろうか。周囲を巡りながら鳥も秋も楽しみましょう。

### 川越市・西川越探鳥会

期日：10月24日（日）

集合：午前9時、JR川越線西川越駅前。

交通：JR埼京線大宮8：36発にて、川越8：57発に乗り継ぎ乗車、西川越下車。

担当：佐久間、長谷部、藤掛、石井（幸）、

池永、中村（祐）、山本

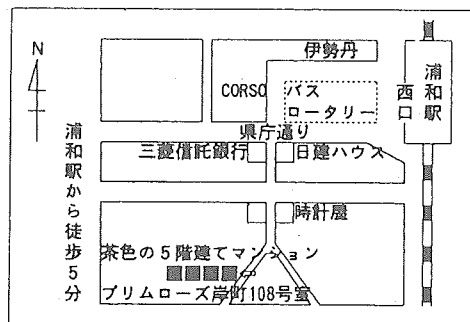
見どころ：秋も深まり、冬鳥のカモや小鳥たちの季節になりました。タカ類もどんなのが出現してくれるでしょうか。カワセミもすっかり定番になりました。

### 「しらこぼと」袋づめの会

とき：10月30日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：10月も末ともなると、紅葉が山から里に降りてきて彩り豊かになる。袋づめ作業も十数人の方、熟年から児童までの協力者があり、賑やかにこなしています。今月も今まで通りで変わることない作業予定ですが、ご協力方よろしくお願いたします。



### 北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会

期日：10月31日（日）

集合：午前9時15分、東武日光線柳生駅前。

交通：JR宇都宮線大宮8：19→栗橋8：53着、栗橋にて東武日光線乗り換え8：58発。または東武日光線新越谷8：20→春日部8：36→栗橋8：58→柳生9：08着。

担当：玉井、入山、内田、高（剋）、高（文）、田邊、中里

見どころ：北の国から帰って遊水池に勢ぞろいしたカモやカイツブリ、谷中村史跡の冬鳥たち、そして大空に舞うタカなどを見ながら秋の水辺をゆっくりと歩きましょう。

「行事案内」は7頁にもあります

# 行 事 報 告

6月26日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 20人

荒木恒夫、海老原教子、大坂幸男、大塚操、大友慎也、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、佐久間博文、島田恵司、島田沙織里、清水勝智、志村佐治、納谷美月、福井昭子、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、増田徹、百瀬修、山野庸子

7月3日(土) 上尾市 八枝神社

参加: 17人 天気: 小雨

アオバズク(1種) 天候不順の中、17名も参加いただいた。今年は、大ケヤキの巣穴で無事ヒナを育てているようだ。しかし残念ながら、まだ元気なヒナの声は聞こえなかった。1羽が巣近くでじっと見張りをし、6時50分ごろより採餌のため音もなく飛び始めた。今回は小雨のため暗く、きれいなアオバズクをお見せできず残念。(浅見健一)

7月4日(日) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地

参加: 40人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ヨシゴイ ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ トビ チュウヒ バン シロチドリ キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ モズ コヨシキリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス ハシ



ウズラシギ (蟹瀬武男)

ボンガラス(28種) 真夏の暑さも考慮して、初めてのコースを設定した。北エントランス付近のアシ原浄化ゾーンの中で、普段はなかなかお目にかかれないヨシゴイ、ササゴイやコヨシキリ、オオヨシキリ、セッカと葦原の鳥をじっくり観察できた。(橋口長和)

7月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 16人 天気: 雨

カワウ キジバト ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボンガラス(14種) 朝から雨が降ったり止んだりして実施の判断に苦しんだが、小雨決行との意見もあり、明戸堰に向かって出発。SLを見送ったあたりより雨が強くなり、残念ながらここで終了とした。その後、有志の人で、参加者のOさんの案内で寄居のアオバズクを見に行っただ。こちらも雨の中であつたが、じっくり見ることができた。(和田康男)

7月18日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

雨のため中止。

7月18日(日) 浦和市 三室地区

参加: 64人 天気: 晴

ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ キジキジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボンガラス ハシブトガラス(21種) 暑い日。しかし、前月の例会が雨で中止となったためか多数の参加者があつた。鳥は少なかったが、カワセミは常連の出現鳥となったのか、姿をあらわした。今回はメインリーダーをお休み。しかし参加者も多くてたまには留守がいいのかな! 本人は鳥見でなく、北の離島の山登りで、久しぶりに北の鳥に驚いたりしながらも、やっぱり

り三室の鳥も仲間もいいものだとしみじみ思った。  
(楠見邦博)

7月25日(日) 狭山市 入間川

参加: 26人 天気: 晴

カイツブリ ゴイサギ ササゴイ コサギ アオサギ カルガモ オオタカ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒバリ ツバメ イワツバメ  
ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ シジウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス  
(24種) 炎天下の河原では、鳥よりも日陰を探してしまう。稲荷山公園までガンバリ、木陰に入ってほっとしたが、ここでも鳥が少ない。夏の平地はどこでも同じ問題を抱えている、楽しく夏を乗り切る方法はないだろうか。  
(長谷部謙二)

7月31日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 19人

荒木恒夫、内田孝男、大坂幸男、大塚操、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、佐久間博文、篠原東彦、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、納谷美月、原島浩、原田謙、藤掛保司、藤野富代、増田徹、松村禎夫、山野豊

8月1日(日) 北本市 石戸宿

参加者: 37人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ カルガモ オオタカ コジュケイ バン キジバト カワセミ ツバメ ヒヨドリ シジウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (18種) 歩き出してすぐ、ふれ合い橋のところでカワセミが目の前のアシ原に飛び込んだ。オオヨシキリの鳴き声もなく、鳥影も少ない。そのため、ゴミ拾いに専心(?)できた。高尾の池でバンを見ていると、対岸を低くオオタカが飛んだ。冷たい飲み物でのどを潤し、雪景色のビデオを見て涼しくなったところで解散。

(岡安征也)

8月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 26人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コジュケイ キジ バン キアシシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハ

クセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス セッカ ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) 朝より蒸し暑かったが20名を超える参加があった。参加者の中には探鳥より健康のため汗をかきに来た人がかなりいた様子。特に珍しい鳥は出なかったが、木陰で休んでいるキジのオスが見られ、またその先でメスが2羽現われてくれた。何たって暑いので少々早めに終了した。お疲れ様。  
(和田康男)

8月22日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 59人 天気: 晴

カワウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ バン コチドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ オバシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ セイタカシギ ウミネコ キジバト ツバメ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 干潮から満潮にかけての時間、シギ・チドリ類をゆっくり観察。秋の渡りのときは、夏羽の色が褪せているし、幼鳥もいるので、識別が難しい。干潟に広がる佃煮状態に、参加者の皆さんもオーバーヒート気味だった。  
(杉本秀樹)

8月28日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 17人

荒木恒夫、有馬雅男、海老原教子、大坂幸男、大塚操、佐久間博文、志村佐治、島田恵司、島田沙織里、高文子、田村典子、福井昭子、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、百瀬修、山野豊



エゾビタキ

連絡帳

●本部のバードショップ1周年記念

渋谷区初台に移って9月30日で1周年。記念フェアとして、光学機器メーカー別の期間限定特別セールを開催します。

10月1日(金)～9日(土) ミノルタ

EZ8X20 ¥8,400 (50%OFF)

10月12日(火)～20日(水) ベンタックス

タクロ-Mini9X21 ¥6,500 (50%OFF)

タクロ-V8X24 ¥7,500 (50%OFF)

10月21日(水)～30日(土) ニコン

シールド8X23CF-WP ¥19,250 (30%OFF)

E-1S8X23CF ¥17,500 (30%OFF)

フィールドスコープII ¥28,700 (30%OFF)

フィールドスコープEDII ¥51,800 (30%OFF)

11月1日(木)～10日(水) キヤノン

10X25A ¥11,000 (50%OFF)

8X23A ¥7,500 (50%OFF)

15X45ISと12X36ISは、下取り機持参の場合 ¥5,000引き

特別提供品は数に限りがあります。期間中「ワイルドバードカレンダー2000」写真展も併せて開催。バードショップTEL 03-5358-3584。

●第5回NTT-MEワールドバードカウント

NTTの再編に伴って主催がNTT-MEに変わりましたが、内容は変わりません。10月1日～31日までの期間中の観察で、世界中から報告された鳥1種について1,000円(上限500万円)が、バードライフインターナショナルに寄付されます。

今年のテーマは「身近な鳥を見つけよう」。重点目標の身近な野鳥のチェックリストができています。チェックリストの請求や問合わせ、観察結果の連絡は、TEL 03-3278-3272、FAX 03-5440-4811、E-mail wbc@wnn.or.jp、ホームページ http://www.wnn.or.jp/wbc/

●秋の猛禽類渡り情報提供のお願い

本部研究センターを通じてアジア猛禽類保護ネットワーク(ARRCN)から情報提供の依頼が届きました。

ARRCNは、アジア諸国の猛禽類研究者・保

護関係者によるネットワークで、1997年のインドネシアの森林火災による森林消失や煙害による猛禽類の渡り・越冬に対する影響の調査を計画しています。〒635-0823 奈良県北葛城郡広陵町三吉439 ARRCN 煙害プロジェクト事務局 新谷保徳(Nitani Yasunori)

E-mail NAH00266@nifty.ne.jp

●鳥学会自由集会

本部研究センターが、鳥学会東京大会の一環として企画しました。

テーマ：カワウを通じて野生動物と人の共存の道を探る－鳥害問題の対応の方向性

日時：10月11日(月)午後6時から

場所：東京大学本郷キャンパス農学部2号館2階1番教室 (入場無料)

問合せ先：研究センター成末雅恵 (TEL 042-593-6872、FAX 042-593-6873、E-mail PXP10344@nifty.ne.jp)

●10月の事務局 土曜と日曜の予定

2日(土) 普及部会議。

16日(土) 編集会議、研究部会議。

17日(日) 役員会議。

23日(土) 校正作業。

30日(土) 袋づめの会。

●会員数は

9月1日現在3,057人です。

活動報告

8月15日(日) 役員会議(司会：浅見健一、各部の報告・第8次鳥獣保護事業計画の基準改定に対する意見・その他)。

8月21日(土) 9月号校正(榎本秀和、海老原美夫、喜多峻次、藤掛保司)。同日、事務局整理(渡辺泰子)。

8月30日(月) 9月号発送(倉林宗太郎、藤掛保司)。

編集後記

今月号はおなじみの「ごめんなさいコーナー」がないですね。さびしいですね。(海)

『しらこぼと』1999年10月号(第186号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)  
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130  
インターネットホームページ http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階  
(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事は上記ホームページに転載されることがあります。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用